

第9回秋高連「ふるさと訪問団：県北編（鹿角～北秋田地区）」報告

秋高連ホームページの2019年「第8回ふるさと訪問団 県南編」の報告を見ると、「来年は県北に行きま」と結んでいます。今年5月にコロナ規制も緩和され、3年越しに待望の第9回秋高連「ふるさと訪問団：県北編（鹿角～北秋田地区）」を実施することができました。

前回同様に大人の休日倶楽部パスを使用し、6月22日（木）～23日（金）の1泊2日の日程で、来年4月から「鹿角高校」への統合を控え最終年度となる花輪高校、十和田高校、小坂高校の3校を訪問しました。参加者は大館鳳鳴、能代工業、花輪、小坂、秋田北、秋田工業、秋田商業、秋田南、秋田中央、明桜、由利工業、矢島、大曲工業、横手、横手工業の各高校16校から37名の参加者があり、うち女性は7名でした。

初日は東京駅8：40発の「はやぶさ・こまち9号」にて盛岡駅ホームに32名が集合し、北改札口にて先発隊の3名及びバスガイドの黒澤さん（八幡平出身、小坂高校卒）と合流。西口バスターミナルにて結団式を行い、秋北バスの大型観光バスに乗車しました（写真1）。

バスは盛岡ICより東北自動車道を一路北に向かい、途中、左手に南部富士の「岩手山」の雄大な姿を眺め、黒澤さんの民話や楽しいお話で盛り上がりながら、秋田県に入り、鹿角八幡平ICで高速を下りて、最初の訪問先「道の駅あんたらあ」で昼食。比内地鶏わっぱ飯は熱々でとても美味しく、早くもビールで乾杯している方もちらほら。昼食後は、併設されている花輪ばやし祭り展示館にて、2016年ユネスコ無形文化遺産に登録された花輪ばやしの屋台を見学。絢爛豪華な黄金色の祭り屋台10台が並んだ展示は見事でした。

次の訪問先は、1300年の歴史がある「史跡尾去沢鉱山」。途中、鉱山のシンボルの大煙突が見えたので、バスから降り最初の記念撮影（写2）。坑内入り口でガイドの2名に出迎えていただき、2班に分かれて坑内に入り、手掘り跡や大規模採掘跡を見学しました。坑内は常時13℃で涼しいよりは寒いくらいで、売店では坑内で熟成されたお酒も販売していました。

次に、最初の訪問校の花輪高校を訪ねました。佐藤貢校長より、花輪高校の歩みや、力を入れている部活動、特に陸上部やスキー部からのオリンピック選手輩出や、吹奏楽部の全国大会連続金賞受賞などのご紹介がありました。校歌の音源を用意されていて、佐藤校長からのリクエストで花栄会から参加の6名が前に並んで、一緒に校歌を斉唱する一幕もありました。各教室や体育館を見学した後、高校の入り口で、来年4月からの「鹿角高校」開校に向けた増築工事中の校舎をバックに、佐藤校長と記念撮影をしました（写真3）。

鹿角市のスポーツ複合施設の「アルパス」では、車中から高梨沙羅選手や小林陵侑選手も練習に来るといふ3基のスキージャンプ台を見学した後、花輪の街中を通り、昔懐かしい「こもせ」の残る国登録有形文化財の「旧関善酒店」を見ながら、次の訪問先の味噌醤油の「福寿」で有名な明治5年創業の浅利佐助商店へと向かいました。

浅利佐助商店では、浅利滋社長より会社概要を説明していただき、職人の方の案内で工場見学をしました。工場内は醤油のいい香りが漂い、味噌作りでは熟練の職人なら味噌の色を見ただけで美味しいかどうか分かるとのことでした。帰りがけに、福寿醤油と比内地鶏スープを全員にお土産としていただきました。

た。

初日最後の訪問先の鹿角市役所では、職員の方々に出迎えていただき、鹿角市市制 50 周年記念時の資料が配布され、関厚鹿角市長より、ふるさと訪問団歓迎の挨拶の後、田沢湖のクニマスを例に、地方と中央の人に繋がり大切さや、鹿角市が有する 4 つのユネスコ登録遺産に続いて秋田・鹿角の素晴らしい食文化のユネスコ登録を目指したいと夢のあるお話があり、一緒に記念撮影をしました（写真 4）。

初日の行程が終わり、宿泊先である開湯 800 年の大湯温泉「龍門亭千葉旅館」に到着。小休憩後、早速お待ちかねの宴会がスタート。望月会長のご挨拶、藤原幹事長のご発声で地元のお酒「千歳盛特別吟醸酒」で乾杯。さすが会席料理が自慢の旅館だけあって、「鹿角牛の鉄板焼」「北限のふぐのしゃぶしゃぶ」「じゅんさい」「きりたんぽ」など、地元の名産を中心に食べきれないほどのお料理が並び、味も絶品でした。矢島高校の熊谷和夫さんから、由利本荘市齋彌酒造店の地酒「百竈」の差し入れがあり、あまりの美味しさにあつという間に空になっていました。余興として、毛馬内盆踊保存会の馬淵大三会長はじめ踊り手、囃子、歌い手 25 名により、昨年ユネスコ無形文化遺産に登録された「毛馬内盆踊り」が披露され、皆さん一時食事を忘れ、勇壮な太鼓や優雅な踊りを堪能しました。

宴会もあつという間に中締めとなり、カラオケやロビーでの二次会となりました。ロビーでの二次会では、由利工業高校の柴田健蔵さんからお惣菜や鹿角にちなんだ小坂ワイン「秋田美桜ワイン」の差し入れがあり、甘くて飲みやすいワインは女性に人気でした。

ちなみに、千葉旅館の社長千葉潤一さん（花輪高校出身）の計らいで、全国旅行支援制度が適用できることになり、今回の宿代を低く抑えることができました。

2 日目は、千葉旅館の玄関前で記念撮影（写真 5）の後、初めに隈研吾氏が設計し秋田杉をふんだんに使用した「道の駅おおゆ」に立ち寄り、地元名産品などの買物を楽しみました。

2021 年に縄文遺跡群としてユネスコ世界遺産に登録された特別史跡「大湯環状列石」に到着したころは、少し雨が降り始めていましたが、2 班に分かれて広い敷地にある環状列石と大湯ストーンサークル館内を見学し、記念撮影をしました（写真 6）。遺跡にある野中堂環状列石と万座環状列石の中心の石を一直線に結ぶ先が、夏至の日の日没位置に当たるそうで、縄文人の知恵をうかがわせるお話でした。

小雨の中、次の訪問先である郷土出身の著名人を展示している鹿角市先人顕彰館に到着。大澤太館長より、内藤湖南氏、和井内貞行氏および特別企画展の大湯環状列石の発掘保存などに尽力した諏訪富多氏の業績について、分かりやすくご説明いただきました。ちなみに、大湯環状列石でガイドをしていただいた脚本家で文化功労者の高木豊平先生と先人顕彰館にてお出迎えいただいた内藤湖南研究などで知られる高木英子先生はご夫婦で、かつて花輪高校で教鞭をとっておられ、昨年 4 年ぶりの花栄会総会に恩師としてご参加いただきました。

次いで 2 つ目の訪問校、十和田高校に向かいました。深井裕之校長から歴史やふるさとを知る「かづの学」の文化活動、また陸上、スキーなどの部活動が盛んで、花輪高校同様、オリンピック選手を輩出していることなどお話をいただいた後、校内見学は英語のリスニング試験中とのことで体育館のみとなりました。深井校長と校門前での記念撮影時、校門前の「純・剛・忍」の校訓を刻んだ巨石は 35 トンあり、輸送時あまりの重さでトレーラーがパンクし大変だったとのエピソードを伺いました（写真 7）。

小坂町の「青銅館」で、小坂鉱山産出の黒鉱をイメージした「黒鉱カレー」の昼食をいただいた後、観

光名所の「明治百年通り」を通り、「小坂鉱山事務所」「康楽館」「小坂鉄道レールパーク」を車中から眺めながら、3つ目の訪問校、小坂高校に向かいました。

小坂高校では、佐藤貴文校長、同窓会本部成田直人会長が出迎え、所用の佐藤校長に代わり、青山博輝教頭より歴史や特色を説明していただいた後、ラグビー部の創設者の山口清彰先生のご案内で、普通科棟、環境技術科棟などの各教室を見学し、学校前で記念撮影をしました（写真8）。普通科3年生5名の教室をみて、時代の流れを感じざるを得ませんでした。

バスは最後の訪問地である史跡「伊勢堂岱遺跡」に向かいました。車中、ビールやお茶で喉を潤し、また、かつて花輪高校と小坂高校で教鞭をとられ、今回この2校訪問時に同席された大館市在中の大高恵美先生（小坂高校出身）から頂戴した大館名物の「ハチ公サブレ」を皆さんでいただきました。

小坂 IC より東北自動車道を青森方面に向かい、途中の小坂ジャンクションから秋田自動車道に入り、大館、鷹ノ巣を通り、目的地の大館能代空港 IC で秋田自動車道を下り、県内でユネスコ世界遺産登録されたもうひとつの縄文遺跡、史跡伊勢堂岱遺跡に到着。あいにくの雨と時間が押していたことから、ガイドの方から伊勢堂岱縄文館にて遺跡の発見から特徴など説明をいただき、最後の記念撮影をしました（写真9）。大館能代空港へのアクセス道路建設に先立った平成6年以降の調査がきっかけで、次々と遺跡や環状列石が発見されたことを初めて知りました。

予定したすべての行程を終え、バスは鷹ノ巣駅に向かい、鷹ノ巣駅にて解散式を行いました。2日間の訪問先ではいろんな学びや出会いがあり、皆さんが無事に旅行を終えられたことは何よりの喜びでした。

来年4月1日より、花輪、十和田、小坂の各校が統合し、新生「鹿角高校」としてスタートします。統合前の最終年度に3校を訪問できて、本当に幸いでした。「鹿角高校」では、それぞれの学校の伝統や特色を受け継いでほしいと思いました。

最後に、今回のふるさと訪問では地元の方、関係者の方々にご協力をいただき、集合写真やスナップ写真の撮影では、秋田南高校の大森素弘さん、花輪高校の田村行さん、また、ガイドの黒澤さんには撮影でもお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

来年のふるさと訪問は「県央地区」です。この報告の冒頭のようにならないことを願いながら、来年も必ず実施しましょう。楽しみにしています。

文責：岸谷、根市（幹事）